

少しだけ、足を止めて
読んでもらえませんか。

「ママー」

平成28年5月3日午後9時40分ころ、下松市大字山田 山陽自動車道下りにおいて、中型貨物車が渋滞停止中の普通乗用車(家族5人乗車)に追突し、その他の車両等も巻き込み、合計7台が関与する事故が発生しました。
この事故で普通乗用車に同乗していた3人(妻、子供2人)が死亡、運転中のご主人が意識不明の重体、3歳の子供が骨折等で重傷、その他の車両のドライバー、同乗者等合わせて合計7人の方が重軽傷を負いました。



～ 被害者遺族の声 ～

娘と孫が死んでから、最初に娘の家に入ると、階段の横に、学校に行く準備を済ませたランドセルが目に入りました。まさか、死んだ孫は突然、死んでしまうなんて思っているはずもなく、学校に行く準備をしていたようです。そのランドセルは、しばらく階段の横に置いていたのですが、ランドセルが目に入ると涙が止まりませんので、今は孫の勉強機の椅子に掛けて目に入らないようにしています。

孫は、娘だけでなく、私も一緒に育ててきました。

中学生の孫は、今でも私に抱きついてくるような子でした。

そんな孫達を失って、正直な気持ちは、相手の運転手を殺してやりたいです。そんな私の本当の気持ちを、周りの人に話すこともできませんし、できるだけ周りの方々に迷惑をかけることがないように、気丈に振る舞うようにしていますから、私の苦しい思いは、ずっと胸につかかったままです。

でも、相手を殺しても、死んだ娘や孫が戻ってくる訳ではありませんし、こんな気持ちでいたら、娘も孫も悲しむのではないかと思います。ですから、娘が自分の体をはって、命がけで守った孫の幸せだけを考えて生きていこうと思うようにしています。

死んだ二人の孫は、娘が手を繋いで天国に行ったのだと思います。死んだ孫の面影は天国の娘が見るでしょうから、私達は残された孫のことを一生懸命見ていきたいと思っています。

ただ、入院中の孫は3歳で、一番母親に甘えたい時期なのに、甘えたい母親はいません。夜になると「ママー。」と言いながら泣いているそうです。今は看護師の方が良く目をかけていただいていますので助かっていますが、これから孫が寂しい思いをすることを考えると、胸が締め付けられる思いです。

相手の運転手の処罰のことについては、正直、今、考えることもできません。ただ、自分がしたことの重さは忘れてもらいたくありません。相手の人に願うことは、毎年、5月3日、4日の娘や孫の命日に、高速道路を通して、心の中だけでもいいですから「すみませんでした。」と手を合わせてもらいたいと思っています。

今、倉庫に、事故の時、孫達が着ていた血だらけの切り刻まれた服があります。最後に孫達が着ていた服をゴミとして捨てることは忍びないので、明日自分たちの手で焼いてあげることにしています。



高速道路を運転するドライバーの皆さんへ

誰も事故を起こそうとして車を運転していません。しかし、ドライバーのわずかな不注意が事故につながり、他人の人生や自分の人生を大きく変えてしまいます。高速道路では、全国で年間約200人以上の方が、山口県内においても多数の方が交通事故で亡くなられています。

次は、あなたが加害者になるかもしれません。安全運転に心がけ、悲惨な交通事故を防止しましょう。